

コラム 豚丹毒について

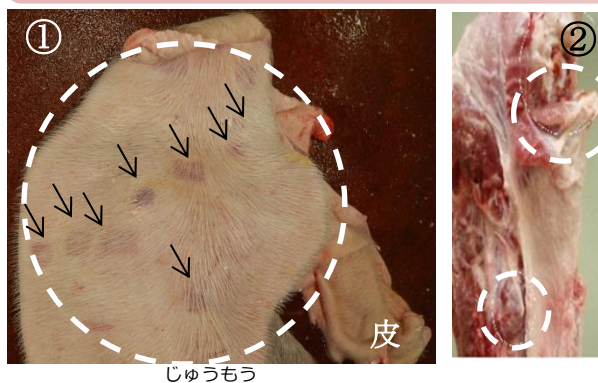
令和元年 11月発行 第11号

豚丹毒は、豚丹毒菌 (*Erysipelothrix rhusiopathiae*) の感染によりおこる人獣共通感染症で、家畜伝染病予防法に基づく届出伝染病です。

1. 症状

- ① 急性型 (敗血症型) : 発熱、チアノーゼなどを呈して急死
- ② 亜急性型 (蕁麻疹型) : 隆起した淡紅色の菱形丘疹が背中や臀部等に発生
- ③ 慢性型 (関節炎型) : 四肢の関節の腫脹及び跛行
- ④ 慢性型 (心内膜炎型) : 心臓の弁膜にカリフラワー状の隆起病変 (俗称イボ) を形成 (生前診断は困難)

2. と畜検査では



蕁麻疹型は、肩、背中、臀部などの菱形の丘疹 (矢印) として発見されます (写真①)。

関節炎型は、膝関節、肘関節などの腫脹、関節液の増量、支配リンパ節 (内腸骨リンパ節や第一肋骨リンパ節) の腫脹、

関節腔内の絨毛増生などが認められます (写真②)。心内膜炎型は、心臓弁膜のイボ、他には腎臓の点状出血が見られます。と畜検査で豚丹毒を疑うと「保留」し、確定診断により「全部廃棄」となります。

3. 発症要因と対策

原因菌は環境に広く存在しています。

<対策>

- ① 日頃の適切な飼養管理、衛生管理 (消毒など)
- ② ワクチン接種
- ③ 治療にはペニシリン系抗生物質が有効 (蕁麻疹型は治療、回復後出荷可能)

対策については**管理獣医師等に相談**してみてください



山形県庄内食肉衛生検査所 (データ還元担当)
TEL 0234-45-1285 FAX 0234-42-3850